

第 3 章 結果の考察

今回の調査は、平塚市民の居留意向、まちづくりに対する重要度や満足度、生活の満足感を調査し、今後、まちづくりを進めていくための基礎資料を得るとともに、令和6年度からスタートした「平塚市総合計画～ひらつかVISION～」に基づいて実施している本市のまちづくりに対して市民がどのように感じ、どう評価しているかを把握することを目的として実施しました。

この調査の結果から、次のことが明らかになりました。

■【1】今後における平塚市への居留意向などについて（問1）～（問4）

【定住意向は引き続き8割以上。住み続けたい理由は引き続き「温暖な気候や自然環境」が上位】

定住意向について

84.2%の方が、「住み続ける」又は「たぶん住み続ける」と定住意向の回答をしました。住み続けようと思う理由としては「温暖な気候で、海、山、川に囲まれ、自然環境が良い」が5割を超えており、調査を開始した平成25年度から引き続き、平塚市への定住意向につながる大きな要素となっています。また、住み続けようと思う理由として、前回調査から増加した項目は、「医療機関や福祉施設などが充実している」が3.2ポイント、「買い物がしやすい」が1.9ポイント増加しています。

年代別で見ると、20代の定住意向の方は67.8%となっており、前回調査（53.4%）から14.4ポイント増加しています。また、10代から30代までの住み続けようと思う理由として「買い物がしやすい」が上位に挙げられています。

移転意向について

「移転する」又は「たぶん移転する」と回答した移転意向のある方は7.4%でした。その理由としては「家族の都合で」と「その他」が最も多くなっています。「その他」の具体的な理由としては、結婚や就職、定年退職などのライフイベントが挙げられました。また、年代別に見ると、40代と50代では「家族の都合で」と「その他」が高くなっており、転職や定年退職などを見据えて、将来的に移転することを検討されている方がいるものと考えられます。一方で、20代では、20.2%となっており、前回調査（31.5%）から11.3ポイント減少しています。

魅力や誇りについて

居留意向とは別に、『平塚市の魅力や誇りに感じること』を伺ったところ、「総合公園などの施設の充実した大きな規模の公園」が36.1%と平成25年度調査から引き続き高い結果となりました。また、年代別で見ると、30代以上で2位以内となっています。さらに、2位の「大型商業施設など、買い物がしやすい環境」は、70代以上を除いた年代で、2位以内となっています。

「総合公園などの施設の充実した大きな規模の公園」と「大型商業施設など、買い物がしやすい環境」は、年代を問わず、平塚市の魅力と感じられています。

■【２】まちづくりの状況について（問５）

「平塚市総合計画～ひらつかVISION～」に基づいて実施している本市のまちづくりに対して、市民がどのように感じ、どう評価しているかを把握するため、次のとおり分野別施策の分野ごとに伺っています。

分野１	子ども・子育て、教育
分野２	健康、福祉
分野３	共生、文化芸術、スポーツ
分野４	安心・安全、都市基盤、交通
分野５	産業、雇用、環境

「重要である」の割合：「たいへん重要」と「重要」を合わせた割合 重要度：P.46 で算出した評価点

「満足している」の割合：「十分満足」と「満足」を合わせた割合 満足度：P.46 で算出した評価点

○分野１ 子ども・子育て、教育

この分野における「重要である」の割合は、68.1%と他の分野と比べて、最も高く、この分野の全ての項目が、全 32 項目の重要度の平均を上回っているほか、自由意見においても子育て支援に関する声が寄せられていることから、子育てしやすい環境づくりや未来を担う子どもの確かな学力と豊かな心、健やかな体の育成が強く望まれていると考えられます。

満足度では、「子育て支援の充実」や「子どもの学びの充実」が全 32 項目の平均を上回っている一方で、「若者支援の充実」と「青少年が健全に成長する環境」が、全 32 項目の平均を下回っています。

これらのことから、引き続き、子育て支援に取り組むとともに、次世代の社会の担い手として活躍が期待される若者を支援する必要があります。

○分野２ 健康、福祉

この分野における「重要である」の割合は、64.3%と３番目に高く、「満足している」の割合は、12.9%と分野４に次いで高くなっています。項目別で見ると「健康づくりの推進」の「重要である」の割合が 69.7%（全 32 項目中 5 位）、「満足している」の割合が 22.3%（全 32 項目中 3 位）となっており、重要度、満足度ともに高くなっています。また、「地域ぐるみでの支え合いによる福祉活動」の重要度が全 32 項目の平均を下回っているものの、「高齢者福祉の充実」、「障がい者福祉の推進」の重要度は全 32 項目の平均を上回っており、満足度では、全ての項目が全 32 項目の平均を上回っています。

（問７）で、困っていることや心配ごとを伺ったところ、自分や家族の健康が上位に挙がっており、このことから健康に対する関心が高いことが分かります。

現在の居住については、「持ち家（「一戸建て」と「マンション・共同住宅」の合計）」が 81.0%と最も高くなっています。また、（問 10）で高齢になったときに希望する住まいについて伺ったところ、「持ち家」と答えた方は 77.1%となっており、「高齢者向け住宅」と答えた方は、4.8%となっています。

これらのことから、健康でいつまでも住み慣れた地域で、自分らしく暮らせるよう、健康寿命の延伸や多様な主体が協力して支える体制づくりが必要です。

○分野3 共生、文化芸術、スポーツ

この分野における「重要である」の割合は、39.3%と他の分野と比べて、最も低くなっています。また、項目によって差が大きく、「友好・姉妹都市、企業及び大学などとの交流の促進」や「多文化共生意識の向上及び異文化理解の促進」が特に低くなっています。

重要度では、この分野の項目全てが全32項目の平均を下回っており、満足度については、「多文化共生意識の向上及び異文化理解の促進」が、全32項目の平均を下回っているものの、その他の項目は全32項目の平均を上回っています。

「多文化共生意識の向上及び異文化理解の促進」は、重要度、満足度ともに低くなっており、外国籍市民が増加傾向にあることから、一人ひとりの違いを認め合い、互いに協力し合いながら暮らすための取組が必要です。

○分野4 安心・安全、都市基盤、交通

この分野は、「重要である」の割合が67.1%と分野1に次いで高く、「満足している」の割合は、16.7%と最も高くなっています。重要度については、項目によって差が大きく、「災害に強いまちづくり」や「消防・救急体制の強化」、「日常生活の安心・安全」、「交通の利便性・快適性の向上」が特に高くなっています。理由としては、市民の生命、身体及び財産や日常生活に直結する項目であることなどが挙げられます。

「満足している」の割合については、「消防・救急体制の強化」が26.2%（全32項目中1位）と「花とみどりにあふれるまちづくり」が25.5%（全32項目中2位）と特に高くなっています。「災害に強いまちづくり」や「交通の利便性・快適性の向上」は、満足度が全32項目の平均を大きく下回っています。

「交通の利便性・快適性の向上」については、満足度が低いことや自由意見においても多くの声が寄せられていることから、更なる交通の利便性と快適性の向上が求められていることが伺えます。また、重要度や満足度から「災害に強いまちづくり」や「日常生活の安心・安全」が第一に求められていることが分かりますが、これらの推進には自治会等の地域の力が不可欠であることから、市民の地域活動への意識や行動が高まるよう取り組む必要があります。

○分野5 産業、雇用、環境

この分野の重要度は、項目によって差が大きく、環境に関する項目は高くなる傾向にあり、産業に関する項目は低くなる傾向にあります。「雇用の確保や多様な働き方の促進」は高くなっています。

満足度については、「循環型社会の形成」が全32項目の平均を上回っているものの、その他の項目は、平均を下回っており、産業に関する項目は、「満足している」の割合が、不満足（「あまり満足していない」と「満足していない」を合わせた割合）を大きく下回っています。市民の関わりが薄く、国内の景気や世界経済の動向、物価変動など外的要因の影響を受けやすい分野であるものの、産業分野全体の更なる活性化に向けた取組が必要です。

さらに、重要度が高く、満足度の低い「雇用の確保や多様な働き方の促進」は、市民生活に大きく関わる項目であるとともに、自由意見においても経済的な安定に関する声が寄せられていることから、将来に不安を感じることをない安定した生活基盤に向けた雇用の確保や仕事と家庭を両立しやすい労働環境の整備を促進する必要があります。

■【3】生活の満足感や、困っていること・心配ごとについて（問6）～（問10）

【現在の生活に満足している方は6割以上。高齢（65歳以上）になった時の住まいは、8割弱が持ち家意向】

生活の満足度について

『生活の満足度』については、「満足している」又は「まあ満足している」と回答した方が、61.7%で、前回調査から11.6ポイント減少しました。年代別で見ると10代は80.0%、70代以上は74.5%と他の世代と比較して高くなっているものの、30代は53.2%、40代は53.0%と低くなっています。

また、「やや不満である」又は「不満である」と回答した方の割合は、40代が最も高く、次いで30代となっています。30代、40代の困っていることや心配ごととして、「収入や資産」が上位に挙がっており、子どもの教育費、老後の資金など経済的な不安感が大きいと考えられます。

全年代で見たときの困っていることや心配ごととしては、「自分の老後のこと」が最も多く、次いで「自分の健康」、「家族の健康」となっています。

老後のことで困っていることや心配ごとについて

『ご自分の老後のことで困っていることや心配ごと』や『ご家族の老後のことで困っていることや心配ごと』を伺ったところ、ともに「健康のこと」が最も高くなっています。

『ご自分の老後のことで困っていることや心配ごと』では、10代から40代までは、「日頃のお金のこと」が最も高くなっており、老後の資金に対する不安があるものと考えられます。

また、『ご家族の老後のことで困っていることや心配ごと』では、「健康のこと」が最も高くなっていますが、「介護のこと」も同程度の割合となっており、ご家族の病気やその後の介護に対する不安を多くの方が感じているものと考えられます。

高齢（65歳以上）になったときに希望する住まいについて

「持ち家（一戸建て）」または「持ち家（マンション・共同住宅）」と回答した方は、77.1%となっており、年代別で見ても、全ての年代で6割以上となっています。

「高齢者向け住宅（老人ホームなど）」と回答した方は、4.8%で、年代別に見ると20代が9.5%と最も高くなっています。30代が3.2%、70代以上が7.7%と年代が上がるごとに高くなる傾向にあります。

これらのことから、高齢になったときに、高齢者向け住宅に移ることを考えている方がいるものの、多くの方は、住み慣れた持ち家に住むことを考えていると思われます。

